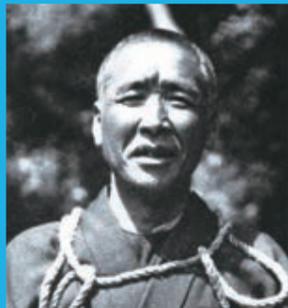


劔岳と黒部の魅力を紹介します 宇治 長次郎

優秀な山のガイド

陸地測量部の案内人

劔岳・黒部峡谷案内の達人



1871 (明治4) 年 12月23日 - 1945 (昭和20) 10月30日

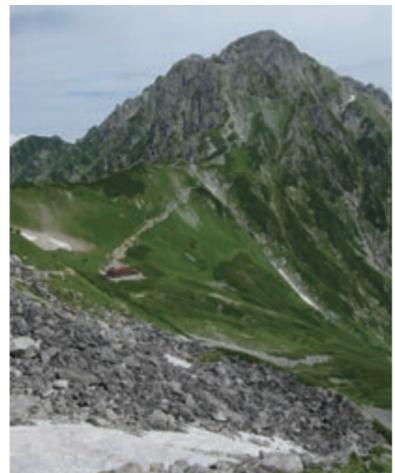
山仕事で鍛えられた子ども

常願寺川が流れる新川郡下山和田村 (現富山市) で生まれ、14歳のときに隣の小見村の宇治家に養子に入りました。

長次郎は子どものときから山の

木を切ったり、砂防工事の現場で働いたりしました。岩から岩へ飛び移る技は村では一番だったうえ、百貫 (375kg) の荷物を軽々と背負って歩きました。

長次郎の銅像 (富山市粟栗野) (富山市大山歴史民俗資料館提供)



劔岳 (国土交通省国土地理院北陸地方測量部提供)

安心して登山できるルートを案内

長次郎は、山道を登るのが得意だったうえ、雲の動きや形、風の向きなどを見て天候を予測することができました。また、面倒見がよく、たくさんの友人がいました。そうした特技や才能を生かし、山のガイドの仕事もしていました。

長次郎は岩場や険しい山でも、軽々と登ることができました。また、危険な場所を無理に進むことはなく、人々が安心して登ること

ができるルートを案内しました。長次郎の山登りの技術の高さや知識の深さは、登山家も驚くほどでした。

そんな長次郎は1907 (明治40) 年7月、陸軍の陸地測量部から劔岳頂上までのガイドを頼まれました。地図を作るために劔岳の頂上に三角点*を打ち込む仕事です。当時、劔岳はだれも登ったことのない神聖な山と考えられていました。



石崎光瑤が撮影した「劔岳 登頂記念写真」 (安曇野市豊科近代美術館蔵)

劔岳登頂を成功させる

長次郎は測量部とともに劔岳に挑み、重い荷物を背負って登りました。あちこち歩き回って、登りやすい場所を探しますが、頂上へのルートは見つかりません。長次郎はいろいろな場所を見て回った結果、雪渓 (雪が積もった谷) を登るしかないと考えました。そして、一行は慎重に雪渓を進み、7月28日、ついに測量部は三角点を設置しました。

優秀な山のガイドとして有名に

なった長次郎に1909 (明治42) 年、再び劔岳のガイドの依頼がありました。今度は測量ではなく、日本画家の石崎光瑤をはじめとする日本山岳会という一般の人たちの登山です。一行は長次郎の案内のもと測量部と同じルートをたどり、民間人として初めて劔岳頂上に立ちました。この登頂がきっかけとなり、スポーツとしての登山が一般の人にも広がっていきました。

*三角点 [さんかくてん] 三角測量の基準となる点。以前は三角測量で測量し、縮尺して地図を作っていました。

劔岳と黒部峡谷の名ガイド

1909 (明治42) 年、日本山岳会のメンバーは長次郎の見事な案内ぶりをたたえて、登山ルートである劔岳東面の三ノ沢雪渓を「長次郎谷」と名づけました。また、このときのメンバーの一人吉田孫四郎が書いた紀行文によって、「劔岳の名ガイド」として長次郎の名は多くの人に知られるようになりました。

1915 (大正4) 年、長次郎の実力と人柄の評判を聞いた有名な登山家からガイドを頼まれました。この登山家は富山市出身で英文学者でもある田部重治と日本山岳会会長を務めた小暮理太郎 (群馬県出身) です。長次郎たちは、劔岳や黒部峡谷の難しい登山ルートを見つけました。

また、秘境といわれる黒部の谷や山を探検し、その魅力を紹介

して「黒部の父」といわれた登山家、冠松次郎 (東京都出身) から、長次郎は厚い信頼を得ていました。1919 (大正8) 年からのおよそ10年間、長次郎は松次郎に付き添い、黒部峡谷のほとんどすべての支流と尾根に足を踏み入れました。長次郎は「黒部の名ガイド」としても知られるようになり、70歳を過ぎて山ガイドを続けました。



長次郎谷 (国土交通省国土地理院北陸地方測量部提供)



長次郎 (右から2人目) と冠松次郎ら一行 (社) 日本山岳会蔵、黒部市歴史民俗資料館提供

夢や志をかなえたポイント

- 家の手伝いを通して体を鍛える
- 自分の特技を生かす
- 未知のことにも挑戦する

豆知識 長次郎にガイドを頼んだ日本山岳会のメンバーは、石崎光瑤 (南砺市出身)、吉田孫四郎 (高岡市出身) のほか、河合良成 (南砺市出身)、野村義重 (舟橋村出身) から東大生でした。

- 1871 (明治4) 0歳
新川郡下山和田村に生まれる
- 1885 (明治18) 14歳
宇治弥三右衛門の養子になる
- 1902 (明治35) 31歳
信濃越中方面で二等三角測量の仕事をする
- 1907 (明治40) 36歳
測量三角点設置のため劔岳登頂に参加
- 1909 (明治42) 38歳
日本山岳会の案内人として劔岳に登頂
- 1915 (大正4) 44歳
田部重治に案内を頼まれ劔岳北方ルートを開く
- 1919 (大正8) 48歳
この年から黒部峡谷のほとんどに足を踏み入れる
- 1936 (昭和11) 65歳
NHK「名ガイドを囲む座談会」に出席
- 1945 (昭和20) 73歳
亡くなる

コラム 劔岳の錫杖

陸軍の陸地測量部の一行が劔岳山頂に着いたとき、一行は修行の僧が持つ錫杖の頭と鉄剣を発見しました。劔岳登頂の一番乗りだと思っていたのが、そうではなかったわけです。

錫杖の頭は奈良時代末から平安時代の初めのものと考えられますが、はっきりした製作年代は分かっていません。この錫杖の頭は現在、国指定重要文化財として富山県 (立山博物館) で保存されています。

